



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月13日
上場取引所 東

上場会社名 東和薬品株式会社
コード番号 4553 URL <https://www.towayakuhin.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田逸郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 田中政男 TEL 06-6900-9102
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	168,325	19.9	13,204	146.7	17,169	270.0	11,518	480.4
2023年3月期第3四半期	140,405	11.8	5,352	△68.5	4,639	△78.0	1,984	△86.8

（注）包括利益 2024年3月期第3四半期 14,879百万円（71.3%） 2023年3月期第3四半期 8,683百万円（△47.3%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	234.03	—
2023年3月期第3四半期	40.32	—

（注）「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	414,685	148,820	35.9
2023年3月期	371,347	136,894	36.9

（参考）自己資本 2024年3月期第3四半期 148,820百万円 2023年3月期 136,894百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2024年3月期	—	30.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	229,000	—	15,500	—	19,500	—	13,000	—	264.12

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 前連結会計年度は、連結子会社9社の決算期変更の経過期間となり、当該連結子会社は15ヵ月（2022年1月1日～2023年3月31日）を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	51,516,000株	2023年3月期	51,516,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,296,786株	2023年3月期	2,294,167株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	49,220,794株	2023年3月期3Q	49,221,859株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、当社は、2023年2月13日開催の取締役会において、連結決算における連結子会社9社の決算日を12月末日から3月末日に変更することを決定いたしました。これにより、当第3四半期連結累計期間の連結決算は当該連結子会社9社の2023年4月1日～2023年12月31日の決算を取り込んだものとなり、前第3四半期連結累計期間の連結決算は当該連結子会社9社の2022年1月1日～2022年9月30日の決算を取り込んだものとなっております。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループにおいては、「人々の健康に貢献し、こころの笑顔を大切にすること」を企業理念として、2021年5月に発表した「第5期 中期経営計画2021-2023 PROACTIVE II」（以下、「中期経営計画」という）に基づき、国内ジェネリック医薬品事業をコア事業としつつ、新規市場として海外市場での拡大と成長、新規事業として新たな健康関連事業の展開を目指し、各種課題に取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、以下のとおりです。

連結業績 (単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	140,405	168,325	27,919	19.9%
売上原価	89,353	107,916	18,562	20.8%
売上総利益	51,051	60,408	9,357	18.3%
販売費及び一般管理費	45,699	47,203	1,504	3.3%
営業利益	5,352	13,204	7,852	146.7%
経常利益	4,639	17,169	12,529	270.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,984	11,518	9,534	480.4%

東和薬品株式会社において、近年追補品を中心に販売数量が伸びたことと、研究開発費等の販売費及び一般管理費が減少したことにより、好調な結果となりました。

業績につきましては、売上高168,325百万円（前年同期比19.9%増）、営業利益13,204百万円（同146.7%増）、経常利益はデリバティブ評価益3,615百万円が発生したことで17,169百万円（同270.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は11,518百万円（同480.4%増）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりです。報告セグメントのセグメント利益につきましては、のれん償却前の数値となっております。

セグメント別業績 (単位：百万円)

	国内セグメント				海外セグメント			
	2023年 3月期 第3四半期	2024年 3月期 第3四半期	増減額	増減率	2023年 3月期 第3四半期	2024年 3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	110,005	132,840	22,835	20.8%	30,540	35,565	5,025	16.5%
セグメント 利益	8,245	16,320	8,074	97.9%	185	82	△103	△55.5%

(注) セグメント利益は、営業利益ベースの数値です。

(国内セグメント)

国内ジェネリック医薬品業界では、2017年に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2017(骨太方針2017)」のもとで、ジェネリック医薬品の使用割合を2020年9月までに80%までに高めることが目標として掲げられ、当社をはじめとするジェネリック医薬品企業は、生産体制の拡充と安定供給に努めてまいりました。ジェネリック医薬品の普及が進んだ結果、2023年9月の数量シェアは82.2%(2023年7-9月期 日本ジェネリック製薬協会調べ)となりました。

一方、2020年に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020(骨太方針2020)」を踏まえ、2021年度以降は2年に1度の通常の薬価改定に加えて中間年における薬価改定が実施され、薬価改定が毎年行われることになり、医薬品業界にとって極めて厳しい状況となっております。

さらに、2020年に発覚したジェネリック医薬品企業における品質問題を起因とした一連の供給不安により、ジェネリック医薬品に対する信頼感は低下し、ジェネリック医薬品業界の置かれた環境は厳しさを増しております。このような状況の中、2023年6月に厚生労働省から公表された「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会 報告書」において、供給不安に関する課題の記載と、後発品産業構造の見直しに関する提言がなされました。また、2023年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2023(骨太方針2023)」にも、「医療上の必要性を踏まえた後発医薬品をはじめとする医薬品の安定供給確保、後発医薬品の産業構造の見直し」の強化を図るという記載がなされました。現在、「有識者検討会 報告書」における提言を踏まえ、「後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会」で産業のあるべき姿やその実現に向けた産業政策について幅広い議論が行われています。さらに、各会議体での議論を踏まえ、令和6年度薬価制度改革において、後発品を中心とした医薬品の安定供給確保のために、企業の安定供給体制を評価する企業指標の導入と評価結果の薬価改定への活用が決定しております。

以上のような環境のもと、当社グループの国内ジェネリック医薬品事業においては、安定供給のための増産に取り組み、東和薬品3工場の年間生産能力は140億錠となりました。さらに、山形工場において進めていた第三固形製剤棟の建設工事が2023年11月に完了しました。今後は設備導入を進め、2024年4月の稼働開始、2024年度以降の生産能力175億錠の実現に向けて取り組んでまいります。

製造管理及び品質管理面では、医薬品の製造管理及び品質管理の基準であるGMP省令やその他関連する法令遵守はもちろんのこと、国際的基準であるPIC/S GMPやICHガイドラインも積極的に取り入れ、独自の制度・教育訓練により、医薬品の適切な品質と安全性の確保に取り組んでおります。また、安定供給体制の維持・強化のため、原薬の複数購買化や製造所の監査等を推進し、グループ全体として原薬製造から製剤製造、物流、販売に至るまで、ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底に向けた取り組みを継続して行っております。

販売面では、2023年6月に新製品2成分5品目、2023年12月に新製品2成分4品目の販売を開始し、当社のジェネリック医薬品の製品数は339成分780品目(2023年12月時点)となりました。

健康関連事業の展開においては、「健康長寿社会に対応した医療・介護の実現や、医療から未病のケア・予防へシフトする社会に貢献する」ことを課題として認識し、当社の「人々の健康に貢献する」という理念に沿って、新規事業の創出に取り組んでおります。地域包括ケアシステム等の新しい医療体制への対応や、「健康寿命の延伸」の実現に向け未病対策や健康維持に関連する様々な新規事業の創出に注力し、健康関連事業の多角的な展開を実現してまいります。

当第3四半期連結累計期間の国内セグメントの業績は、売上高132,840百万円(同20.8%増)、セグメント利益16,320百万円(同97.9%増)となりました。

(海外セグメント)

当社グループの海外セグメントでは、海外市場での拡大と成長に向け、Towa Pharma International Holdings, S.L.(以下、「Towa INT」という。)を通じて、欧州及び米国市場でのジェネリック医薬品事業を展開しております。Towa INTが持つ欧州複数国及び米国での販売網と、欧州にある欧米等の基準に準拠した製造拠点を活用し、日米欧の3極から世界中の患者に高品質で付加価値のあるジェネリック医薬品を提供できるグローバル事業基盤を確立してまいります。

当第3四半期連結累計期間の海外セグメントの業績は、売上高35,565百万円(同16.5%増)、セグメント利益82百万円(同55.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、414,685百万円となり、前連結会計年度末比43,338百万円の増加となりました。その主な要因は、建設仮勘定の増加16,781百万円、受取手形及び売掛金の増加12,756百万円、棚卸資産の増加6,741百万円、現金及び預金の増加6,444百万円などです。

負債につきましては、265,865百万円となり、前連結会計年度末比31,412百万円の増加となりました。その主な要因は、長期借入金の増加33,297百万円などです。

純資産につきましては、148,820百万円となり、前連結会計年度末比11,926百万円の増加となりました。その主な要因は、利益剰余金の増加8,565百万円、為替換算調整勘定の増加3,334百万円などです。

その結果、自己資本比率は35.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月15日に公表した2024年3月期の連結業績予想を修正いたします。

詳細は本日（2024年2月13日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,257	30,701
受取手形及び売掛金	46,795	59,551
電子記録債権	7,777	8,874
商品及び製品	44,457	47,662
仕掛品	13,906	14,676
原材料及び貯蔵品	34,564	37,329
その他	11,413	14,443
貸倒引当金	△180	△50
流動資産合計	182,990	213,190
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	56,190	56,744
機械装置及び運搬具（純額）	18,966	17,891
土地	17,039	17,342
建設仮勘定	31,155	47,936
その他（純額）	3,652	3,763
有形固定資産合計	127,004	143,679
無形固定資産		
のれん	34,613	31,914
その他	18,332	17,689
無形固定資産合計	52,945	49,604
投資その他の資産		
投資有価証券	676	774
その他	8,542	8,266
貸倒引当金	△812	△828
投資その他の資産合計	8,407	8,212
固定資産合計	188,357	201,495
資産合計	371,347	414,685

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,272	16,872
電子記録債務	18,798	10,475
短期借入金	3,677	3,987
1年内返済予定の長期借入金	7,527	8,576
未払法人税等	1,190	4,569
引当金	117	124
その他	29,944	32,349
流動負債合計	78,529	76,955
固定負債		
長期借入金	150,314	183,611
退職給付に係る負債	322	240
その他	5,287	5,057
固定負債合計	155,923	188,909
負債合計	234,453	265,865
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,717	4,717
資本剰余金	7,837	7,837
利益剰余金	121,232	129,798
自己株式	△5,608	△5,609
株主資本合計	128,179	136,745
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106	133
為替換算調整勘定	8,608	11,942
その他の包括利益累計額合計	8,715	12,075
純資産合計	136,894	148,820
負債純資産合計	371,347	414,685

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年12月31日)
売上高	140,405	168,325
売上原価	89,353	107,916
売上総利益	51,051	60,408
販売費及び一般管理費	45,699	47,203
営業利益	5,352	13,204
営業外収益		
受取利息	10	48
受取配当金	6	7
補助金収入	79	95
デリバティブ評価益	—	3,615
為替差益	811	768
受取補償金	509	—
その他	494	402
営業外収益合計	1,912	4,938
営業外費用		
支払利息	496	674
デリバティブ評価損	1,494	—
その他	634	298
営業外費用合計	2,625	973
経常利益	4,639	17,169
特別利益		
固定資産売却益	0	196
その他	0	—
特別利益合計	1	196
特別損失		
固定資産処分損	35	53
投資有価証券評価損	20	—
減損損失	417	21
特別損失合計	473	75
税金等調整前四半期純利益	4,167	17,290
法人税等	2,183	5,771
四半期純利益	1,984	11,518
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,984	11,518

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,984	11,518
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	26
為替換算調整勘定	6,698	3,334
その他の包括利益合計	6,699	3,360
四半期包括利益	8,683	14,879
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,683	14,879
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	110,005	30,399	140,405	—	140,405
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	140	140	△140	—
計	110,005	30,540	140,545	△140	140,405
セグメント利益	8,245	185	8,431	△3,079	5,352

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,079百万円は、のれん償却額△3,075百万円、セグメント間取引消去△3百万円です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	132,840	35,484	168,325	—	168,325
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	81	81	△81	—
計	132,840	35,565	168,406	△81	168,325
セグメント利益	16,320	82	16,403	△3,198	13,204

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,198百万円は、のれん償却額△3,165百万円、セグメント間取引消去△33百万円です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。